

元祖

モリモリ書店

令和2年度 愛知教育大学附属岡崎中学校

読書だより

Pミス・シャーロットリット

ホーリーバルト

第17話 R02.06.09(火)

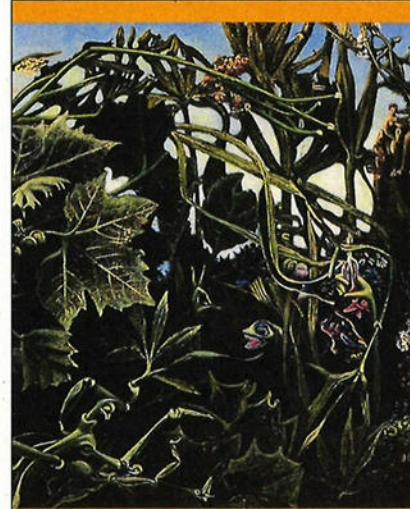
「本当に恐ろしいもの
とはなんだろう。」

★今回、紹介する本は、『夏の災厄』(著/篠田節子、
出版/角川文庫)。

東京近郊にある架空の都市である「昭川市」に、
謎のウイルスが突如蔓延し、人々の命と心をむしば
んでいく「パンデミック小説」を紹介。今の現代の
状況ともシンクロする部分が多いのが特徴。しかも、
この作品、約23年前の作品というから驚きです。

平凡な町である「昭川市」に、ある日突然、熱に
浮かされ、けいれんしながら亡くなっていく謎の病
が発見される。しかし、行政や政府、大手病院の動
きは鈍く、病はどんどん広がっていく。

この作品で、行動を起こすのは、保健センターの
職員を中心とした普通の人々。一つ一つの「命」を
なんとしてでも救おうと行動する姿に胸をうたれます。と同時に、無関心な社会や保
身に走る政府など、現実の闇を浮き彫りにします。600ページの長編ですが、ぜひ。



夏の災厄

篠田節子

SHINODA SETSUKO

NATSU NO SAIYAKU

角川文庫

どうにか、
できるものなんですね。
(P.58リ)

ドラマチックに、キアッセ!!
ヨリは、冷静な
感じとなりて、
余計にこわい。△△△

無関心、世人事ば、
そ、ともおこうい。*

信用するに迷る
ほど、人間は
合理的で
知りすぎるくな
生きものではない。
(P.432)

BONY